

阪急電鉄株式会社

『梅田阪急ビル』

●大阪市北区

贈呈理由

環境性・快適性を兼ね備えた大型複合ビルを目指し、大規模な蓄熱システムを採用



梅田阪急ビル



氷蓄熱ユニット



glycol 冷凍機

高効率の蓄熱システムでCO₂削減を図る

梅田阪急ビルは、1929年に我が国初のターミナルデパートとして開業以来、1977年の阪急グランドビル竣工まで合計9回の増築を重ねてきたが、2002年施行の都市再生特別措置法に基づき800%の容積緩和が適用されたことで、7年間にわたる建て替え工事期間を経て、売場面積8万㎡の百貨店と賃貸面積7万㎡のオフィスから成る大規模複合ビルとして生まれ変わった(12年11月グランドオープン)。また、ビルの建て替えにあわせて南北と東西の両コンコースを全面改築するとともに、東西コンコースの上部に2階通路を新設することで、東側はHEPファイブ方面に、西側は歩道橋を経由して阪神百貨店とJR大阪駅方面につながった。さらに、エレベーターやエスカレーターを併設することで地下1階～地上2階レベルでのバリアフリー化を実現するなど、周辺施設との回遊性が格段に向上した。

ターやエスカレーターを併設することで地下1階～地上2階レベルでのバリアフリー化を実現するなど、周辺施設との回遊性が格段に向上した。

新しくなった同ビルは、低層部の外周部に階段やバック廊下を配置して熱負荷を低減するようにしており、設備計画においては、最新の高効率熱源機器や夜間電力を利用した大規模なエコ・アスを導入、大温度差水・低温送風、外気冷房制御など可能な限りのCO₂抑制対策が実施されている。

最高水準にある環境性能

阪急電鉄株式会社は環境にやさしいオフィスビルや商業施設づくりをすすめており、この計画においても、最新の高効率空調熱源機器の採用とイン

バータによる空調機やポンプ、エレベーターの制御などによって省エネルギー化を図る設計となっている。

CASBEE大阪(大阪市建築物総合環境評価制度)で最高位のSランクを取得し、省エネや省資源・リサイクル性能だけでなく、室内環境を含め、建築物の環境性能が総合的に優れていることが証明された。

阪急電鉄株式会社 梅田阪急ビル

所在地:大阪市北区角田町8-7
設計監理:株日建設
建築施工:株大林組
延床面積:約254,000㎡
竣工年:2012年(新設)

●蓄熱設備概要

エコ・アス(セントラル) 熱源機: glycol 冷凍機 1,582kW×1基(荏原熱システム)
蓄熱槽:144㎡×2基(スタティック) / glycol 冷凍機 1,407kW×2基(荏原熱システム)
蓄熱槽:256㎡×2基(スタティック)